

令和5年（2023年）12月定例議会本会議（12月14日）

## 環境教育常任委員長報告（所管事務調査・他都市調査）

ただいま議題となっております行政部門別常任委員会の所管事務調査について、環境教育常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

まず、委員会は、5月18日会議を開き、今年度の他都市調査の日程を決定し、続いて、6月14日会議を開き、調査テーマに関する協議を行いました。

次に、9月6日会議を開き、教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンターについてを調査項目として神奈川県厚木市、インクルーシブ教育についてを調査項目として岡山県新見市、夜間ごみ収集についてを調査項目として福岡県福岡市を視察することを決定しました。

その後、9月22日、26日の2日間会議を開き、調査項目に関する本市の状況等について関係部局から説明を聴取し、質問を行いました。

このように調査項目に関する理解を深めた後、10月18日から20日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月6日会議を開き、委員間で意見交換を行いました。

主な意見を申し上げますと、まず、教育情報ネットワーク用コロンデータセンターについては、

- ・本市の「よこすか教育情報ネットワークシステム」の現状の脆弱なセキュリティレベルに鑑み、また、大規模なシステム障害を防ぐため、文部科学省による校務支援システムの全国共通クラウド化と教職員用端末の校務用と学習用の一本化に対応した新たな基盤・機器構築時に厚木市と類似したデータセンター活用の検討も選択肢の一つである。

という意見、

- ・文部科学省からガバメントクラウド活用の方向性が明示された時点で、機動力をもって対応できるよう、様々なパターンを想定し準備しておくことが必要である。

という意見、

- ・厚木市のセキュリティレベルは高い印象を受けたが、データセンターの設計上、建物に入るケーブルは1か所であり、地質学者や生物学者から見ると弱いところもあると思うので、同様の事業を

実施する場合は様々な視点からネットワークの安全性を分析することも必要である。

といった意見がありました。

次に、インクルーシブ教育については、

- ・小中学校の特別支援教育関係者が保育園と連携を深めている点などは参考となるが、人口や地理的な要因を踏まえると本市にそのまま新見市の取組を導入できるかどうかは検討が必要である。

という意見、

- ・特別支援教育に関わる教員も増えているので、本市の国立特別支援教育総合研究所と連携して様々な質の高い研修を行うなど、恵まれた環境を有効に活用してはいかかがか。

という意見、

- ・新見市では本人や保護者の声に丁寧に耳を傾けながらインクルーシブ教育を進めており、本市でもインクルーシブ教育を進める際は、同様に本人や保護者の状況を踏まえて対応してもらいたい。

といった意見がありました。

次に、夜間ごみ収集については、

- ・カラス被害の抑制効果は確認できたが、本市に夜間収集を取り入

れる場合、収集時間を考慮すると、カラス以外の鳥獣による被害は福岡市より多くなる可能性があるため、今後はそういった課題の解決方法についても検討しながら、この事業について考えていきたい。

という意見、

- ・夜間収集については市民の様々なライフスタイルを踏まえて検討する必要がある。一方、戸別収集については公平なサービスを提供できるかという点で課題が残る。

という意見、

- ・福岡市では60年以上、夜間ごみ収集を行っているが、地形や風土の違いから他の自治体での導入実績はほとんどなく、仮に有料ごみ袋を導入するにしても相当の困難を要すると考えられる。

といった意見がありました。

以上のとおり、委員から様々な意見があり、このたびの所管事務調査で得た知見は、今後委員がそれぞれの議会活動に活かしていくこととし、本調査を終了します。

以上で報告を終わります。